

子どもたちへのメッセージ集 2014

～ 命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ ～



も く じ

しちょう
市長からのメッセージ…………… 1 ページ

こ 子どもたちへのメッセージ

しんさいとうじ ようす
震災当時の様子…………… 2 ページ

いのち たいせつ
命の大切さ…………… 9 ページ

たすけあい…………… 16 ページ

こ
子どもたちへのエール…………… 23 ページ

ねんめ
20年目をむかえて…………… 30 ページ

こ
子どもたちからの感想文 …… 38 ページ

- ないよう
内容によってテーマ分類しています。
- けいけん おも そんなちよう つた ごじ だつじ のぞ
経験や想いを尊重してお伝えするため、誤字・脱字を除き、メッセージを原文
けいさい
どおり掲載しています。

ひょうし せんぼづる あら たびだち
表紙：千羽鶴タペストリー「新たな出発」

しんさい な
震災で亡くなった6434名の方々をしのび、6434羽の折り鶴で綴ったタペストリーです。

お がみ かみ みな だいにちろくしょうてんかりほか みな きょうりよく へいせい ねん つく
折り紙サークル紙ふうせんの皆さんが、大日六商店会他の皆さんと協力して平成17年に作られました。

市長からのメッセージ

この冬、神戸は阪神・淡路大震災から 20年目の 1月を迎えます。

大きな災害にみまわれた神戸の街は、地域のきずなや世界中の人々の温かい励ましを支えに復興してきました。

多くを失った神戸の街は、人と人とのつながりや支えあうことの大切さ、年齢・性別・国籍などを超えた助け合いの素晴らしさを知りました。このことを世代を超えて伝えたい、この冊子はそんな思いの詰まったメッセージ集です。

ぜひじっくり読んで、きずな・支えあう心、命の大切さを心にとめてください。

みなさん、ひとりひとりが幸せな人生を歩めますように。

平成 27 年 1 月 17 日

神戸市長 久元 喜造

子どもたちへ

1995年1月17日5時46分。頭に激痛が走り目が覚めました。激痛の原因は頭に落ちてきたテレビでした。22さいの時でした。

私は、灘区の市場にある自宅で震災にあいました。下から突き上げられ、家ごとかき回されるような揺れを柱にしがみつकिながら、いつもと違うまだ薄暗い外の光景を見ていました。

強い揺れの間、目と耳にとび込んできた光景は、駐車場のアスファルトが液体のように波を打って車が船のように揺れ、激しくぶつかり合っているような音が響いている状態でした。

そのおこうに目を向けると変わり果てた近所の家が土煙の中に見えました。想像することもできない光景が目の前の現実としてありました。揺れがおさまりました。

今先までのような音がピタッと止み、なにも音のないシーンと静まり返った時間が始まりました。森の中に迷い込んだような無音の恐怖がありました。外に出ると普段の見慣れた光景が、ほんのわずかの間に写真で見た戦争の時の街並みのように変わり果てていました。悲惨な出来事があちらこちらで起こっていました。どこからか聴こえてくるラジオから「強い地震がありました。死亡者は1名です」という声が現実と情報との差にみんなが混乱していました。夜になると真っ暗になりさみしさや悲しみがこみ上げ、さらに寒さを厳しく感じさせました。あの日から20年が経ちました。近所の光景はきれいに変わり、あの震災は夢だったのではないかと感じるほどです。市場も年月を重ねるごとに姿を変え、以前の

おもかげ うす
面影が薄れていってしまっています。床に敷きつめられた昔からあるタイルだ
か すがた のこ
けが変わらない姿で残っています。街の姿が少しずつ変わっていくと同時に、
しんさい こと き
震災の事も消えていくような気がします。1秒先は何が起こるか誰もわからな
びようさき なに お だれ
い。だから毎日一生けん命生き、今に感謝し、命を大切にしていける事を震災の
こと しんさい
きおく とも
記憶と共に、こどもたちに話し続けていこうと思います。

平成25年12月25日

新 照良

子どもたちへ

あの日は真っ暗な中で起こりました。身体がゆらゆらゆれて私の上に母がお
 おいかぶさり、身体と頭を守ってくれました。布団の中で夢なのか現実なのか
 区別がつかない感じでした。

外に逃げると辺りはガス臭く電柱や家が傾いていたり、燃えている所もあり
 ました。気がつくと私は母と弟と手をつないでいました。避難所では窮屈
 な生活を強いられました。水が出ない、寒い、温かい食べ物が無い、身体を伸ば
 して寝ることができない、など今まで当たり前にしていたことができなくなりました。
 不安と辛さがあったけど、その分譲り合うことを、助け合うことを、感謝
 する心を身をもって学びました。みんなが大変な中、一つになった気がしまし
 ました。道で座っているお年寄りがいたら「大丈夫？」と声をかけられるようになり
 ました。歩いていると「これ持って行き」と知らない人が物資のパンや水をくれ
 ました。

普通の生活がこれほど幸せなことなんだと実感できました。頭で考えるの
 ではなく、心で動いていた気がします。あんな事もう二度と起こらないでほし
 いけど、あの時の気持ちや行動はずっと忘れないでいたい。子供達にも小さな
 感動、相手の気持ちを考えること、困った人には手を差しのべるなど自分の心
 で動いていける人間になってほしいと思う。そして大人になった自分にも、もう
 一度できているか問いかけていきたいです。

平成25年11月27日

震災当時の様子

子どもたちへ

とうじ わたし けんせつがいしゃ つと
当時、私は建設会社に勤めていました。

かいしゃ い でんしゃ とちゅう と お じてんしゃ つか たいりょう
会社へ行く電車は途中で止まり、あとは、折りたたみ自転車を使い大量のガレ
キの中通勤しました。

さんのみやえき けんちょうまええき くず たてもの いんしょくてん
三宮駅から県庁前駅までいつ崩れてもおかしくない建物や飲食店からの
くさ 臭いにおいがする、道なき道を悪夢を見ているかのように自転車をこいで通って
いました。

かいしゃ はいきぶつ しょり お げんば い げんばかんとく したうけ たち
会社では、廃棄物の処理に追われ現場へ行く現場監督さんや下請さん達の
ちゅうしょく ため わたし じむいん まいあさつく ちゃ だ
昼食の為のおにぎりを私たち事務員は毎朝作っていました。(お茶のたき出
しや作業服の洗濯など) だろどろになって作業から戻ってきた皆さんにありが
とう、とひとこといただきました。あの頃は、けんせつがいしゃいちがん こうべ まち
もとに戻そうと必死でした。

わたし げんばかんとく したうけ しんさい いえ お
私もそうですが現場監督や下請さんも震災にあい家も落ちついてなかった
おも ひつようさいていげん かくほ しえんぶっし み ささ
と思います。けど、必要最低限さえ確保(支援物資など)できればみんなで支え
あ きょうりょく まいにち い よく で
合い協力する毎日であってもつらくもなかったです。生きていれば欲も出ます
が1月17日の日をおかえる度にあの頃に支え合った日々を思い出します。

平成25年11月27日

子どもたちへ

震災被害の少ない地域でしたが、とても怖い思いをしたのを覚えています。みんながまだ眠りから覚める前の早朝、お父さんは数分前に布団の中で目が覚めていました。物凄い地響きが波のように近づいてくるのが分かり、縦揺れが始まったときには家が崩れる、あかんと思いました。経験したことのない恐怖を味わいました。揺れがおさまり、急いで声を掛け合った家族は無事でした。

けれど、その後につけたテレビの映像は忘れられません。震源地に近い地域は、元の町並みはありませんでした。

ショックでした。見ず知らずの人の無事を心から願う気持ちは初めてだった気がします。自分自身も震災被害が少なかったとはいえ、沢山の人に無事を願ってもらいました。海外に住む友達、変わりはてた神戸の町並みを見て、連絡も取れず、毎日泣いていたと話していました。被害の少ない地域には、仮設住宅があちこちに沢山建ちました。その仮設住宅にボランティアで通っていた母の姿も思い出します。被害は様々でしたが、同じように震災を経験し、怖く、辛い思いをしたからこそ、助け合うことが自然にできたのだと思います。自分だけ良ければいいという考えも持たず、困っている人に優しい言葉を掛けられるような大人になって欲しいと願います。

平成25年12月8日

子どもたちへ

わたし しんさい とき さい はんきゅうろっこう ろっこうみち なか じんじゃ ちか
 私は震災の時、30才で、阪急六甲とJR六甲道のまん中の神社の近くの
 マンションに1人でくらしていました。あの数十秒の恐怖は今でも思い出す
 とぞっとします。ベッドの上で布団をかぶり、じっとしていました。私はこの
 まま死んでしまうのかなと思いました。頭の上で物が飛びかっているのがわか
 りました。ゆれがおさまってから懐中電灯で照らしましたが、足元には物が散ら
 ばっていて歩くのも困難でした。1時間程して明るくなったので外に出てみまし
 た。すると町の光景を見てあ然としました。木造の家がくずれさって人が生
 き埋めになっていたり血だらけの人が歩いたり、すぐ目の前で火災が起きて
 いたり信じられないような状況でした。家の中にいる時はとりあえず仕事に行
 って、帰って来てから家の中を片付けようと思っただけでしたが、電車も動いてい
 ない事を知りました。と方にくれていると近所の人が親切に車の中に入りなさい
 と言ってくださり、パンを一つくれました。全く話した事もない方でした。
 そして携帯電話まで貸してくださいました。それでやっと関東の親戚に連絡が
 とれ無事だと伝えることが出来ました。ふだん全く話した事もないのに親子さ
 んが心配しているのではと本当に親切にしてもらい本当に感謝しています。そ
 して、人と人との心のつながりを感じました。遠くに住んでいる友人も本当に
 心配してくれました。何か今まで忘れていた事を思い出しました。後になって
 何人か知人が亡くなった事を知りました。せっかく生きのびたこの命、大切に
 しようと誓いました。優しい心を忘れないようにしようと思いました。

平成25年1月16日

震災当時の様子

子どもたちへ

ね とき じしん
寝ている時に地震がおきました。

はじめの衝撃はショベルカーがマンションにガンガン当たっているのかと思
いました。

ご ゆ ゆかぜんたい まわ よう
その後の揺れは床全体が回るフライングカーペットの様でした。

おお おお ゆ あたま ふとん ちい
大きな大きな揺れがおさまるまで頭から布団をかぶって小さくなっていまし
た。怖くて怖くてふるえていました。

いえ そと き ゆ たび さけ ひめい
家の外から聞こえるのは「キャー キャー」という、揺れる度に叫ばれる悲鳴
と「ガシャン ガシャン ガシャン」と音を立てて割れる瓦やガラス。

ゆ ちい へや みわた
揺れが小さくなってから部屋を見渡すと

と でんわ じゅわき とお な かん しょっきだな
テレビが飛び、電話の受話器だけが遠くへ投げられている感じでした。食器棚や
ダンス・冷蔵庫は全て倒れていました。

まち み かさい ちち せんそう
ベランダから街を見るとあちこちから火災がおき、父が「戦争みたいや・・・」

しず いま わす
と静かにつぶやいたのが今も忘れられません。

命の大切さ

子どもたちへ

とうじわたし しょうがくろくねんせい
当時私は小学六年生でした。たたきつけられるような衝撃で目が覚め、すぐにはげゆに激しい揺れがきました。たんすの上のひな人形が頭に落ちてきて、箱の中で「ガシャーン」と割れる音がして、“痛い！助けて！キャー！！”っとパニックになりました。この数秒のことで町は被災地となり、私たちは被災者となりました。その中でも家族が無事だったということに計り知れない感謝を感じています。いのちとうと命とはとても尊いものなのです。

しんさいまえ ことば か おんな こ しんさい ぎせいしゃ
震災前に「またね！バイバイ！」と言葉を交わした女の子が震災の犠牲者となりました。えいえん永遠の“バイバイ”になってしまったのです。

こ ひと ひと たいせつ
子どもたちには人と人とのつながりを大切にしてほしいです。

あした いちにちいちにち たの
“明日があたりまえにくる”ではなく、一日一日を楽しいこと、うれしいこと、ときかな悲しいこともあると思いますが、せいっぱい かんじょう たいせつ い
時には精一杯いろいろな感情で大切に生きていって欲しいです。

2014年1月12日

松本

命の大切さ

子どもたちへ

みなさん^{いま}今の生活^{せいかつ}があたりまえだ^{おも}と思っ^{おも}ていませんか？

わたしもそれまではあたりまえだ^{おも}と思っ^{おも}てました。その日^ひまでは・・・

1995年^{ねん}1月^{がつ}17日^{にち}AM5時^じ46分^{ふん}阪神^{はんしん}・淡路^{あわじ}大震災^{だいしんさい}。

あの日^ひ一瞬^{いっしゆん}にしてとんでもない事^{こと}がおこりました。

わたしは何^{なに}が起き^おきたのかわからず

悪い夢^{わる ゆめ}でも見て^みるのじゃないか^{おも}と思^{おも}いました。

それほど信じ^{しん}られない出来事^{できごと}でした。

いろんなあたりまえ^{おも}と思^{おも}ってた事^{こと}がその日^ひを境^{さかい}に

あたりまえではなくなりました。

普段^{ふだん}何げなく使^{つか}ってた水^{みず}も電氣^{でんき}も使^{つか}えなくなり

普段^{ふだん}何げなく食^たべてたごはんも食^たべれなくなりました。

何日^{なんにち}かぶりに口^{くち}にしたおにぎり^{かん}はとでもおいしく感^{かん}じました。

この世^よにあたりまえ^{こと}の事^{こと}なんてないんです。

震災^{しんさい}の何日^{なんにち}か前^{まえ}におばあちゃん^{はな}と話^{はな}してました。

その何日^{なんにち}か後^{あと}におばあちゃん^{しんさい}は震災^{しんさい}で亡^なくなりました。

わたしはおばあちゃん^{だいす}が大好き^{だいす}だったのに

こんな事^{こと}になるんだ^{こと}ったらもっとおばあちゃん^あと会^あって

もっともっといろん^{こと}な事^{こと}してあげたらよ^{こと}かった。すごく後悔^{こうかい}しました。

おばあちゃんはよく言^いってました。人^{ひと}に何^{なに}かしてあげ^あげる時^{とき}は

身^み返^{かえ}りを求^もめたらあかん^{もと}って。その意^い味^みが何^{なん}となく

震^{しん}災^{さい}を経^{けい}験^{けん}してわかつたよ^きうな気^きがします。

あの時^{とき}は本^{ほん}当^{とう}にみ^みん^{たす}な助^あけ合^あっ^{かぞく}て家^か族^{ぞく}み^みたいで

ア^あッ^っト^とホ^ほーム^むな感^{かん}じ^じで^でした。た^たく^くさ^さん^んの^の方^か々^たに^にパ^パワ^ワー^ーを^をも^もら^らい^いま^まし^した。

震^{しん}災^{さい}に^に限^{かぎ}ら^らず^ずみ^みん^んな^な何^{なに}が^があ^ある^るか^かわ^わか^から^らな^ない^いし、

感^{かん}謝^{しゃ}の^の気^き持^もち、思^{おも}い^いや^やり^りの^の気^き持^もち、人^{ひと}と^と人^{ひと}と^との^の絆^{きずな}

そ^それ^れは、い^いく^くつ^つに^にな^なっ^って^ても^もい^いつ^つの^の時^じ代^{だい}も^も大^{たい}切^{せつ}な^な事^{こと}だ^だと

私^{わたし}は^は思^{おも}っ^って^てい^いま^ます。

2013年

下浦 裕美

命の大切さ

子どもたちへ

とうじかんごがくせい わたし まな びょういん ひなん つぎつぎ ふしょうしゃ
当時看護学生だった私は、学んでいた病院へ避難しました。次々と負傷者が
はこ こ なか わたし ざんねん な かたがた みもと かくにん
運び込まれてくる中、私は残念ながらお亡くなりになった方々の身元を確認す
るという役割を与えられました。何十人とご遺体が並べられる中、1人小さな
やくわり あた なんじゅうにん いたい なら なか ひとりちい
男の子も運び込まれました。付き添っていたお母さんは、泣きくずれながら私
おとこ こ はこ こ つ そ かあ な わたし
に教えてくれました。「今年小学校にあがる予定だったんです。ランドセルも買
おし ことししょうがっこう よてい か
ってあるんですよ。それなのに・・・。」と。

わたし みらい ちい いのち じしん かんたん うしな げんじつ いのち
私は未来のある小さな命が地震によって簡単に失われてしまう現実に命
とはこんなにももろく、にんげん おりよく お じしん のろ
人間は無力なのか、と。起きてしまった地震を呪いなが
ら、ただぼうぜんとなみだ なが で き
ら、ただぼうぜんと涙を流すことしか出来ませんでした。

ねん わたし さい こども まいにち せ お げんき
あれから18年、私には7歳の子供がいます。毎日ランドセルを背負って元気
いっばいがっこう かよ
一杯学校へ通っています。

なにげ にちじょうせいかつ とし しんさい おも だ あ
何気ない日常生活ですが、この年になって震災のことを思い出すたび当たり
まえ がっこう かよ しあわ
前のように学校へ通えることの幸せをかみしめています。

みな いま い かんしゃ い い み かんが
皆さんには、今、生きていることに感謝し、生かされていることの意味を考え
まいにち たいせつ せい いっばい す ねが
ながら毎日を大切に、そして精一杯過ごしてほしいと願っています。

平成25年11月28日

命の大切さ

子どもたちへ

いま ねんまえ がつ にち いままでけいけん おお じしん お
今から19年前の1月17日、今迄経験したことの無い大きな地震が起き、
じゅけんべんきょう ため そぼ いえ わたし すえむすめ そぼ い う むすめ
受験勉強の為、祖母の家には私の末娘と祖母が生き埋めになりました。娘
はなし いちどめ ゆ とし お そぼ ね むすめ からだ
の話では、一度目の揺れの時、もう起きていた祖母が、まだ寝ていた娘の体
うえ おお かぶ たが だいじょうぶ だいじょうぶ
上に覆い被さってくれました。お互い「めぐ大丈夫か」「おばあちゃん大丈夫」
こえ か あ どめ ゆ てんじょう はり お したじ
と声を掛け合っていました。2度目の揺れで、天井から梁が落ちてきて、下敷
きになり祖母の声は小さくなり、体も冷たくなりました。

「おばあちゃんが、あの時覆い被さってくれなかったら、私は間違いなく死
でいた。私がいなかったらおばあちゃんは助かっていた私がおばあちゃんを死
なせたんや。」娘はずっと自分を責めていました。

わたし ふたり きゅうしゅつ い とし ふたり す いえ げんけい
私が二人の救出に行った時、二人の住んでいた家はまったく原形をとどめ
ていませんでした。二階が一階になっていて、どこをどうすれば二人のいる場所
に行けるのかわかりませんでした。二人に「大丈夫か？」と声を掛けると娘が、
「ここや！」と云ってくれましたが、真っ暗やみの中、どこで声がしてるかま
たく分らず探していました。そのうち、近所の人や友達が駆けつけて来てくれ
ふたり たす だ そぼ な
二人を助け出しましたが、祖母はもう亡くなっていました。

あれだけの大きな災害になると、警察官や消防署員の人達だけでは救助
かつどう まった おり きんじょ ひと ゆうじんなど きょうりょく いちばんたいせつ かんが
活動は全く無理で、近所の人や友人等の協力が一番大切であると考
えている。

平成26年1月9日

廣瀬 隆作

命の大切さ

子どもたちへ

ドーンと大音響とともに縦振りがおこり、まっ暗闇になりました。

その時、主人は朝食をすませトイレに入っていました。

子猫は「キャン」とさけび、姿を二度と見せてくれませんでした。

「もう、わしあかん」と最後の言葉を残し主人は亡くなりました。小学校の体育館に避難して、おにぎりやパンを頂きました。被害の少ない西区や北区の友人にお風呂を使わせてもらったり衣服を頂きました。

半年もすると少しずつ、道路や建物が整備されてきました。

建造物は新しく生まれかわり、元の姿になりつつありますが

主人（命）は戻ってきてはくれませんでした。

19年が過ぎた今、思う事、沢山の知人、友人、身内に助けられて今があること。行政もよくしてくれたと思います。

でも、失った命だけは取り戻せなかった事。

だから、学校での「いじめ」「いやがらせ」等は悲しい事です。

おたがい、生かされているのだから「助け合い」手を取り合って

仲良く勉強し、クラブで汗を流し、毎日を充実して下さい。

平成26年1月16日

松浦 カエ子



たすけあい

子どもたちへ

あさ した つ あ おと よこゆ
朝、下から突き上げるドカンという音、ユサユサという横揺れ、パリンという
まど わ おと と お
窓ガラスの割れる音に飛び起きました。

わたし ちち うえ たお わたし まくらもと と
私の父の上にはタンスが倒れ、私の枕元にはテレビが飛んでいました。

あさはや で か あに どうろ なみう い かぞく
朝早くからスキーに出掛ける兄は道路が波打っていたと言っていました。家族と
そと で べっせかい いえ たお べつ いえ
外に出てみると別世界、たくさんの家が倒れていました。まっさきに別の家の2
かい そぼ あに たす だ あに い
階にいた祖母を兄といっしょに助け出しました。兄といっしょにスキーに行く
おともだち とな いま いえ かい たす
御友達もお隣りのおばあさんを今にもこわれそうな家の2階からおんぶして助
だ ごこうえん ひなん こうえん あか だ かあ
け出しました。その後公園に避難しました。公園には赤ちゃんを抱いたお母さん
ひなん そと さむ あか
が避難していました。外は寒く赤ちゃんはこごえていました。

いえ くるま なか くるま の こえ の
家の車があるので中ではあったかいので車に乗ってくださいと声をかけて乗せ
てあげました。何年かたったあとで、赤ちゃんのおばあさんが私の母に、おそ
らくおすこさんがまごを くるま の おも たす
車に乗せてくれたんだと思うのですが、とても助かり
ましたとお礼を言ってくれました。兄の御友達が 隣のおばあさんを助けたり、赤
ちゃんを くるま の とき おも こうどう
車に乗せてあげたことも、その時はなんとも思わないで行動したこと
ですが、これが助け合いや思いやりということだったのかなあと思いました。こ
んなこともありました。地震のすぐあとに中学生の時から友達が自転車に乗
って大丈夫か？家族の人も大丈夫か？とたずねてきてくれました。その時のこ
いま わす さい いま なか よ ともだち ともだち
とは今でも忘れません。40歳になった今も仲の良い友達です。みなさんも友達
おも きも だいじ ひなんくんれん
を思いやる気持ちを大事にして下さい。それともうひとつ、みなさんも避難訓練

をおもすると思おもいますが、はんしん 阪神・あわじだいしんさい 淡路大震災ときの時はおお大きな揺れはありましたが津波は
来きませんでした。

外そとに避難ひなんした時とき、津波つなみが来るかも？とは考かんがえませんでした。

もし、津波つなみが来ていたら命いのちを落おとしていたでしょう。災害時さいがいじにはおちついた行こうどう動
がきできないものです。だから避難訓練ひなんくんれんはとてだいじも大事なのですよ。

2013年12月1日

山名 政雄

たすけあい

子どもたちへ

平成7年1月17日の朝のことは今でもはっきりと覚えています。大きな揺れは立ってられないほどのものでした。私はすぐに北区の実家に電話をかけ、無事とわかりほっとしました。

すぐにはつながっていた電話回線は、暫くすると通話が出来ない状態となりました。

これは親類や知人が皆心配して安否確認の電話を一斉にした為です。地震の後は家に帰らず救出作業を続けられた人、家族のことを心配しながらもご自分の仕事の業務をこなされた方もたくさんいらっしゃいました。

「救援物資」と貼ったトラックも何台も見ました。

どんな状況でも力になってくれる人はたくさんいます。

人と人とのつながりは本当にありがたく大切なものです。

これから皆さんが困難なことにぶつかっても「自分はひとりではない」ということを忘れないでいて欲しいです。

助けて欲しい時は伝えて下さい。必ず手をさし伸べてくれる人はいます。

また自分自身も困っている人のサインを見ないふりをする事なく、助けてあげられる人になって欲しいと思います。

平成25年12月5日

たすけあい

子どもたちへ

震災では私の住む地域では火災や家が倒れることはありませんでしたが、JRの線路がハリガネのようにグニャッと曲がっていたのは今でも忘れられません。けれど人の優しさを感じたのもこの時でした。

スーパーの人たちが入口で水や食べ物を売ってくれたり（自分の家族の事も心配だったでしょうに・・・）

スーパーにある貯水タンクの水をくださったりもしました。

また、井戸のあるお家の人たちがホースで入口まで水をもってきて下さり、自由に水を使えるようにもして下さったことも忘れることが出来ません。

また、近所の人たちとも話をすることが増えました。

大きな災害があったとき、それを乗り越えられるのはやはり人とのつながりであり、人とのぬくもりだと思いました。みんなは友だちをつくりましょう！近所のおじさん、おばさん、毎日通ってる道のそばにある木々、花、雑草たち、そして犬たちにもあいさつしましょう！きっとそれが大きな力になります！

2013年12月9日

みゃんみゃん

たすけあい

子どもたちへ

おお ゆ き つ とき たてもの いかいぶぶん つぶ たてもの うも
大きな揺れで気が付いた時には建物の一階部分が潰れていました。建物に埋
れて外に出られない人達がありました。近所の人達が壊れた建物の中に入り助け
だ こと で き いのち こと よろこ あ こわ いえ なか
出す事が出来ました。命があった事をみんなで喜び合いました。壊れた家の中
からストーブや灯油等を持ち出してみんなが集る場所を作りました。

いしゃ しょくりょうひん も かた おも にもつ も
そこに、お医者さんや食料品を持ったボランティアの方が重い荷物を持って、
でんしゃ とお とお ところ ある き くだ ひど
まだ電車が通ってなかったので遠い所を歩いて来て下さいました。人のやさし
み
さが身にしみました。うれしかったです。私達は助かりましたが、建物の下敷に
な な ひど かじ で たす だ こと で き
なって亡くなった人や、あちら、こちらから火事が出て助け出す事が出来なかつ
た人達がたくさんいました。忘れられない悲しい出来事だったので。
ひとたち わす かな できごと

ひとたち ぶん いのち たいせつ ひと おも こころ い
この人達の分も命を大切に、人を思いやるやさしい心をもって生きてほし
いと おも
いと思います。

平成25年12月23日

黒田 朝子

たすけあい

子どもたちへ

地震じしんが起きた日ひ、今まで経験けいけんした事ことのない揺れゆを体験たいけんしました。テレビをつけると神戸こうべの街まちが黒い煙くろけむりを上げていて、私わたしの住すんでいた地域ちいきはあの揺れゆでも大たい事ことなかったと知しりました。神戸こうべに住すんでいるお友達ともだちや、お世話せわになっていた人ひと達たちに連絡れんらくを取ると、みんな無事ぶじで安心あんしんしましたが、水道すいどう、電気でんき、ガスとが通とおっていない事ことを知しり、母ははと沢山たくさんのご飯はんを炊たき、沢山たくさんのおにぎりにぎりを握もって持いって行いきました。

地震じしんがあつて何年なんねんか経たつたある日ひ、料理りょうりを教おしえている神戸こうべのお友達ともだちと雑談ざつたんしていた時とき、「今いままでいろんな美味おいしい料理りょうりを食たべてきたけど、一番いちばん美味おいしかったのは地震じしんの時ときも持もって来きてくれたおにぎりや。」と、言いってくれたのです。私わたしはそれきを聞きいてとても驚おどろいたけど、逆ぎゃくに心こころがとてもあつたかくなりました。

自分じぶんに出来できる事ことでいいから、大切たいせつな人ひとが困こまっていたら手てを差さしのべてあげて下くださいね。

たすけあい

子どもたちへ

ちょうなん しんさい このかご う
長男が震災の9日後に生まれました。

よてい びょういん すずらんだい びょういん
予定していた病院もつぶれてしまい鈴蘭台の病院で
さん
お産をしました。

よしん つづ たいへん ときほんとう
まだまだ余震が続いていて、大変な時でしたが、本当に

ひと たす さん こと
たくさんの人の助けがあってお産できた事、ミルクやおおつを
しきゅう こと たいへん とき ひと
支給してもらった事、大変な時だからこそ、たくさんの人が

ちょうなん たんじょう よろこ こと かんしゃ
長男の誕生を喜んでくれた事にとても感謝しています。

いっしょ かん こと
いつも一緒にいると感じる事がうすくなるかもしれないけれど

まわ ひと かんしゃ まわ ひと たいせつ ひと
周りの人に感謝し、周りの人を大切にできる人になりたいと

おも じぶん こども にんげん おも
思うし、自分の子供にもそんな人間になってほしいと思っています。

子どもたちへのエール

子どもたちへ

はんしん あわじだいしんさい おお ひと いのち
阪神、淡路大震災では、多くの人の命がうばわれてしまいました。

おお ひと かな つら おも
多くの人が悲しみ辛い思いをしました。

なか おきな こども しょうがくせい ちゅうがくせい こうこうせい こどもたち
その中には、幼い子供、小学生、中学生、高校生の子供達も

たいせつ かぞく たいせつ ひと えいえん わか けいけん
大切な家族、大切な人との永遠の別れを経験したでしょう。

つら おとな かぞく たいせつ ひと わか つら
どんなにか辛かったです。大人になっても、家族、大切な人との別れは辛く、
たとえようもない程の思いをします。

「つらくて、つらくて」どうしたらいいのか・・・。

い い いや ほど つら おも こども かんが
生きて行くのが嫌になる程の辛さです。そんな思いを子供がするなんて、そう考
えただけでも涙が出ます。

い い ひとびと おも たいせつ ほ いのち たいせつ
生きたくても、生きれなかった人々の思いを大切にして欲しい、命の大切さを

し ほ じぶん かんけい こと おも ほ かな ひと
知って欲しい、自分には関係のない事だと思わないで欲しい、悲しむ人が

こと し ほ
いる事を知って欲しい、

い こと よろこ かん ほ
生きている事に喜びを感じて欲しいです。

2013年12月9日

子どもたちへ

震災を経験したという言葉がふさわしいかと考えさせられますが、当時4ヶ月だった息子も来年には、20歳になろうとしています。赤ちゃんだった息子はミルクだったので、水がなかった不便さを今も思い出します。水の支給もほとんど震災直後はなくお腹はすいていたにちがいないのに4ヶ月の赤ちゃんは、私の胸の中で抱かれ泣く事もがまんしていたかのように眠っていたなあと思ったりを、時折します。あの時はみんな必死で私も家族も着のみ着のままで外に出て、今まで見ない光景が目焼き付いたことも思い出すだけで怖くなることもあります。そんな中で、まったく見知らぬ人との助け合いにも「あの時、本当にありがたかったなあ。」といまだに忘れないことも、いっぱいありました。本当に苦しかった時に、人に手を差しだしてもらえた時の“ありがとう”は心の奥から言える、重みがあったようにさえ感じます。自然の災害は予告もなく、大事にしていたものをすべて奪いとる恐ろしいものであることも身をもって教えられた一瞬でもありました。人が築いた建て物、人が繋がってきた絆さえも飲み込まれてしまったかのような深い傷になったようにさえ今もなお心の中にはひとつの傷となり残ってしまうほどの衝撃でした。私達家族は、物としてのものはすべて失くなってしまったけれど、命という尊さは残ることができました。

あの1.17で大事な家族と亡くなり会えなくなってしまった方々はたくさんいます。年月は経ち、毎日、一日一日過ぎてゆくけれども、復興があり神戸の街は、また阪神地区は立ち上がりましたが、それもみんながいろんな悲しみを抱え、今ある命を大切にすると共に亡くなった方々を忘れないためにも、胸に刻み

いっしょうけんめいの ^こ 一生懸命乗り越えてこれたからこそ ^{いま} その今があるのだと ^{わたし} 私 ^{かん} は感じています。

^こ 子どもたちには、^{しんさい} 震災 ^へ を経たからではなく、^{ふだん} 普段 ^{ひと} から ^{たいせつ} 人を大切に、^{かんしゃ} また感謝する ^{こころ} 心、^{いのち} そして ^{いのち} 命 ^{いちばんたいせつ} ってほんとに一番大切なんだと ^{きょうくん} 教訓し、^{なに} いざ何かあった ^{とき} 時に ^{ひじょうぶくろ} 非常袋 ^{そな} の備え ^{とも} と共に ^{こころ} 心の ^{あたた} 温 ^{そな} かさも備えていければと ^{つた} 伝えて ^{おも} いきたいと思っ
ています。

平成25年12月3日

澤村 まどか

子どもたちへのエール

子どもたちへ

震災の時私は小学校5年生でした。明石の方に住んでいた為、家がくずれ
る等の大きな被害はありませんでしたが、初めての大地震だった為、恐怖を感じ
ました。大きくゆれる中、恐さで目があけられなかった私は、何かが自分の上に
重なっているのがわかりました。母が私の上に、全身を乗せ、かばってくれて
いました。幸い、何もケガをすることなく助かりましたが母の気持ちがとても
うれしく、ありがたく感じました。母になった今、私もあの時の気持ちが
わかる様になりました。

大きなゆれが終わった後も大変な事ばかりでした。水が出ない、ガスがつかな
い、電気はかろうじてついた為、テレビをみる事ができましたが、長田、中央区
の方の中継を見て、小学生ながらも、戦争が始まったのかと不安になりまし
た。その頃は、震災という教訓もなく何から、し始めればいいのかわからなか
ったのです。今程携帯電話も持っている人も少ない為、離れた家族と連絡をと
る事すら、できませんでした。

その様な大きな地震を経験した私が今思う事は、毎日毎日を大事に生きる事
です。明日何が起るか分からない、朝目覚める事も確実ではない。

朝布団の中で目覚める事が出来る事を幸せに感じ、何でも明日明日と後回しに
しないで与えられた1日1日を大事に生きてほしいですし、私も今そうしてい
ます。

平成25年11月25日

岡本 華代

子どもたちへ

震災を経験して、「しあわせ」や「日常」というものは、簡単に壊れていくものだと気づきました。「あのとき〇〇していれば……。」、後からいろいろ思っても、心はすっかりしないままだと気づきました。今過ごしている「日々」は、とてもかけがえのないものだと気づきました。

人は、経験して初めて、「ああそうだったのか」と気づきます。でも、その一方で「想像する」ということもできるのです。「今、この場面で、私は何をすればよいのだろう。」「この人は、今、何をしたいのだろう」と。

大きな災害などのときだけではありません。日々の暮らしの中に、さまざまな場面があります。自分の身の周りで起きていることに気持ちを向けてみてください。言葉をかける、笑いかける、触れあう、そんなことでよいのです。

人が人をつながるということは、相手のことを想像する（思いやる）ことだと思います。

まずは、自分の近くからはじめてみてほしいです。

2014年1月18日

さえきち らぶ

子どもたちへのエール

子どもたちへ

まいにち おも こと こと しんさい おし
毎日、“あたりまえ”と**おも**っていた**こと**が、**こと**どれほど**おし**ありがたい**こと**か、**しんさい**震災は教
えてくれました。

すいどう でんき いちど かい あまど あ
水道、ガス、**でんき**が**いちど**に**かい**ストップしてしまい、**あまど**2階の**あ**雨戸をやっと開けると、
さんのみや まち ほう くら み くる けわり た のぼ
三宮の街の方から暗く**み**ては**み**っきり見えな**のぼ**かったけど、**くる**黒い煙が**た**立ち上**のぼ**って
るのが**ぶきみ**不**なんぼん**気味**なんぼん**でした。**のぼ**何本も何本も上**けわり**って**もと**いく**なんにん**その煙の元で、**かた**何人の方**な**が**な**せく
な**おとな**ったのかと大人**いま**にな**かんが**った今、**かんが**考**かんが**えます。

いちばんさいしょ でんき き じぶん まち おも こうけい
一番最初に**でんき**が**き**来て、**じぶん**TV**まち**をつけると、**おも**自分の街**こうけい**とは思**こうけい**えない**こうけい**光景に、
なみだ で
涙**なみだ**が**で**出**なみだ**ました。どうしよう・・・と。

さむ ふゆ なんと みず い はこ
寒い冬、何**みず**度**い**ポリ**はこ**タンクに**みず**水**い**を入れて**はこ**運**はこ**んだか？

あたた ふろ いっしゅうかん か はい とき うれ こと なに いのち
温**あたた**かい**ふろ**お風呂**いっしゅうかん**に**か**一週**はい**間**とき**、**うれ**10日**うれ**ぶりに**こと**入れた**なに**時の**いのち**嬉**いのち**しかった**いのち**事**いのち**。何**いのち**より、**いのち**命
がある**こと**事**なにごと**は何**か**事**しあわ**にも**こと**替**こと**えられ**じしん**ない**おし**幸**おし**せ**おし**な**おし**事**おし**だと**おし**地震**おし**が**おし**教**おし**えて**おし**くれ**おし**ました**おし**。どん
な**かな**につらく**いのち**ても**いのち**、**いのち**命**なお**があ**なお**つたら**にちじょう**やり**にちじょう**直**にちじょう**せ**にちじょう**ます**にちじょう**。どうか**にちじょう**日**にちじょう**常**にちじょう**の**にちじょう**“**にちじょう**あたり
まえ”**かんしゃ**に**いのち**感謝**たいせつ**して、**じんせい**命**ひら**を**ひら**大切**ひら**に**ひら**人生**ひら**を**ひら**拓**ひら**いて**ひら**い**ひら**って**ひら**く**ひら**ださい**ひら**。絶対**ぜったい**に、**じぶん**自分**じぶん**の**じぶん**
いのち かがや じぶん け こと
命**いのち**の**かがや**輝**じぶん**きを、**け**自分**こと**で**こと**消**こと**す**こと**事**こと**は**こと**し**こと**ない**こと**で**こと**く**こと**ださい**こと**。

平成25年11月29日

蘭 まりな

前略

消防車、救急車、ヘリ、と
 けたたましいまでの騒音と火災
 による爆発音を聞きながら
 水を、食べ物を探して寒の中
 列をつくらされたあの日……
 ライフラインも止まり、やっと
 電気が使えるようになって、少し
 落ち着きを取り戻して来ましたが
 今尚、余震におびえながら
 過ごしています。

阪神淡路大震災

でお世話になりました。
 励ましの御見舞い、支援を
 いただいた方々へのお礼と近況報告を
 かねての手紙の一部分です。

阪神淡路大震災から十九年もの
 歳月が流れると、せんに当時の事が
 薄らぎ、何となく懐かしい様な気持ちで
 日を送っています。



そ水でも

一月十七日は特別日

忘れていた事が一気に甦って来ます
 皆心にこそ一月十七日は
 大事な日です。

震災を知る人（経体験者は）は
 怖かった、悲しかった、不安だった、等々
 やり場のない気持ちにタイムスリップするでしょう
 そんな中、思やり、協力、がまん、と言った
 今もにあまう、感じておられたことに、気がま
 れた日々。
 震災を心れないで下さい。
 忘れてはならないのです。

東日本大震災も三年前に起り、
 復興はまだまだ大変なようです。
 私たちが十九年前に味わったと同じ思いで
 日を送るおられると思います。

昨年十一月東日本大震災復興支援
 フォーラム（NPO）の会に出席させて
 いただきました。
 多方面から復興支援の手を差し伸べら
 れることを知り、強く思った一日でした。
 東北も十九年も経てば日本と
 言わず世界に誇れる地域と
 なることを期待しています。



そのために今自分の出来る
 ことをしっかりと花で
 言葉は根を張る
 時期だと思いまう。
 やがて大きくきれいな花が
 咲くよう共に頑張りましょう。
 傷ついた心も花を見る
 ことでくらくらか

癒され、やがて
 地域が花はほほ
 明るくなれば亡くされた
 方々も安心される
 ことでしょう。

ご一緒にいい花
 咲かせましょう。

阪神淡路 大震災 東日本

忘れることなく
 未来に向って前進しましょう。
 生あるものが絶える命
 命あることに感謝して
 来年も元気で
 お会い出来る、ことを
 祈りつつ。



20年目をむかえて

『語り継ぐ大切さ…』

はんしん あわじだいしんさい ねん た
阪神・淡路大震災から20年が経とうとしています。

ひ お できごと しゅんかんかん たいかん ひ き つら かな
あの日起こった出来事、あの瞬間感じた体感、あの日から消えない辛さや悲し
み、あの日から乗り越えてきた多くのこと、あの日から芽生えた助け合う力、
あの日から大切にしてきた人を信じ思いあう心…。

みなさんは、当時のことを経験した方からお話しを聞くことしかできないかも
しれません。でも聞いたことからさまざまに想像し、ほんの少しでも当時の出来
ごと ひとびと おも かん こと ひと こと こと こと
事や人々の思いを感じることができたとすれば、これからの皆さんの人生にお
いてきっと大切な心の財産になると思います。

さいがい な さいがい お
災害をすべて無くしてしまうことはできません。しかも災害はいつ、どこで起
きるか予測ができません。いつか災害が起きる可能性があることを忘れないでく
ださい。災害を恐れるだけではいけません。もしも…の時に、自分はどう行動す
るのか、その時の状況にどう向き合うのか、経験された方の体験や反省をも
とにしっかり準備をしておいてください。

ひと たいせつ たが ちから あ こんなん の こ
人とのつながりを大切にしてお互いに力を合わせれば、どんな困難も乗り越
えていけると信じています。すべての人を大切に、すべての命を大切に、これ
よ こと こと こと こと こと こと こと こと
を読むすべての子どもたちが、健やかに力強く生きてくれることを心から願っ
ています。

この「子どもたちへのメッセージ集」も10年という節目を迎え、今年度で終了と伺っています。これまで編集・作成に携わって頂いた職員の皆さま、そして1通、1通に、心を込めて、思いを込めて、メッセージを寄稿して頂いたすべての皆さまに敬意を表しますとともに、これまでの10年間のメッセージが将来にわたって「語り継がれる心の財産」となることを切に願っています。

2014年 7月 1日

神戸市PTA協議会 会長 加地 幸夫

いのちの尊^{とうと}さと震災^{しんさい}の教訓^{きょうくん}がいつまでも語り継^{かた}がれますように・・・

『子どもたちへのメッセージ集^こ』の音訳^{しゅう}と点訳^{おんやく}に参加^{てんやく}して

10年前^{ねんまえ}、“子どもたちへのメッセージ展^こ”を訪^{てん}れた兵庫県^{おとず}声^{ひょうごけんこえ}の図書赤十字^{としよせきじゅうじ}奉仕団^{ほうしだん}の団員^{だんいん}の一人^{ひとり}が手にした『子どもたちへのメッセージ集^こ』。この冊子^{さっし}を「視覚^{しかく}に障^{しょう}がいのある方^{かた}にも読んでいただけたら^よ」と思ったのがきっかけで、当奉仕団^{どうほうしだん}が『メッセージ集^{しゅう}』音訳^{おんやく}と点訳^{てんやく}をさせていただくこととなり、神戸市^{こうべし}人権推進課^{じんけんすいしんか}の皆様^{みなさま}の、『メッセージ集^{しゅう}』制作^{せいさく}にかける熱い思い^{あつおも}とご協力^{きょうりょく}に支えられ、音訳CD^{おんやく}（当初^{とうしょ}はテープ）と点字冊子^{てんじさっし}を制作^{せいさく}。10年間^{ねんかん}神戸市^{こうべし}にお届け^{とど}けることができました。

また、私^{わたし}が視覚^{しかく}に障^{しょう}がいのある方^{かた}と訪^{おとず}れた“子どもたちへのメッセージ展^こ”の会場^{かいじょう}の壁面^{へきめん}には、『サークル紙ふうせん^{かみ}』が作成^{さくせい}された折り紙付^{おがみつ}のメッセージカード^{てんじ}が展示^ばしてあり、その場でメッセージを点訳^{てんやく}してお渡し^{わた}したところとても喜んで^{よろこ}くださいました。それ以来^{いらい}、言葉^{ことば}は『メッセージ集^{しゅう}』の中から選^{なか}ばせていただきながら、『紙ふうせん^{かみ}』の方^{かた}と協同^{きょうどう}で『点字と墨字^{てんじ}（活字^{すみじ}）と折り紙付^{かつじ}』のメッセージカード^{さくせい}を作成^{せいさく}してまいりました。

視覚^{しかく}に障^{しょう}がいのある方^{かた}が“メッセージ展^{てん}”の会場^{かいじょう}で、音訳CD^{おんやく}から流^{なが}れるメッセージ^{みみ}に耳^{かたむ}を傾^{すみじさっし}け、墨字冊子^{すみじさっし}や点字冊子^{てんじさっし}、そして点字付^{てんじつき}メッセージカード^てを手にとって読^よんでくださる姿^{すがた}を目^めにするたびに、「聴^きいてくださってありがとう。読^よんでくださってありがとう。」という気持ち^{きもち}になります。このメッセージカード^よは、東日本大震災^{ひがしにほんだいしんさい}の被災地^{ひさいち}にも届^{とど}けていただきました。

ねんまえ おっと いとこふうふ な し はい おっと とも すまく
 20年前、夫の従姉妹夫婦が亡くなったとの知らせが入り、夫と共に須磨区
 たいくかん か とき いとこ ちようじよ ひようじよう わたし み
 の体育館に駆けつけた時、従姉妹の長女はしんとした表情で私たちを見つ
 どう かあ かお み しず ひつぎ ちい まど
 め、「お父さんとお母さんの顔を見てやって・・・」と、静かに棺の小さな窓を
 ひつぎ なか いとこふうふ くる かお いま わす
 あけてくれたのです。棺の中の従姉妹夫婦のとても苦しそうな顔は今も忘れる
 せいぜん ふたり すてき えがお
 ことができません。そして、生前の二人の素敵な笑顔も。

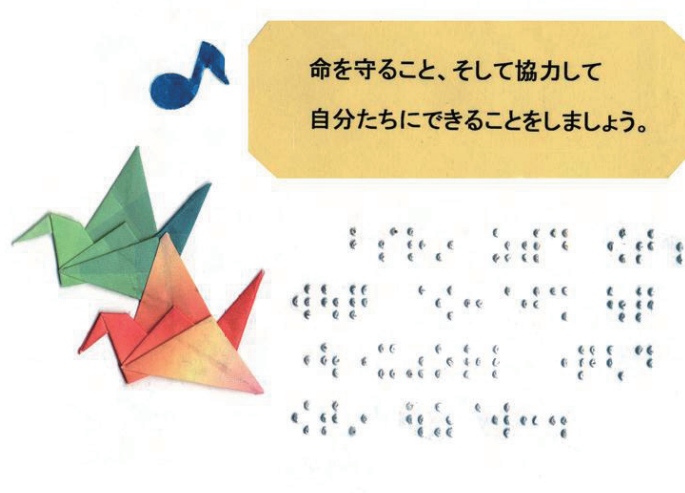
はんしん あわじだいしんさい ひさい かたがた おも かた つ たいせつ
 阪神・淡路大震災で被災された方々の思いを語り継いでいくことの大切さを
 おし こ しゅう ご お ひがしにほんだいしんさい
 教えてくれた『子どもたちへのメッセージ集』。その後起こった東日本大震災や
 かくち ごううさいがい ひさい かたがた おも かさ よ
 各地の豪雨災害で被災された方々の思いも重ねて読むようになりました。

こ しゅう おんやく てんやく さんか こころ
 『子どもたちへのメッセージ集』の音訳と点訳に参加できたことに心から
 かんしゃ しかく しょう かたがた こた
 感謝するとともに、これからも視覚に障がいのある方々のニーズに応えられる
 こえ としよほうしだん さまざま じょうほう つた おも
 よう、声の図書奉仕団として様々な情報をお伝えしていきたいと思ひます。

2014年8月8日

兵庫県声の図書赤十字奉仕団

福井克子（点字班）



20年目をむかえて

子どもたちへ

今回、子どもたちへのメッセージ運動がどのような形ではじまったのか、お伝えしたいと思います。

10年前、震災から10年を迎えようという年でした。私がいたのは人権推進課。そこでの仕事は、人権尊重の理念を伝えること。身近で大切なことですが、おずかしいことです。

「命を大切にしよう」「友達を大切にしよう」…一言で言ってしまうようですが、なんで命を大切にしようと言うのか、友達が大事なのか、震災を経験した大人から子どもたちに自分の経験を自分の言葉で伝えてもらえたら、本当に大切なことが伝わるのではないかと思いました。そして、市民と市をつなぐ仕事をしている市役所の部署、協働と参画のプラットフォームに行き、協力してくださる方々を探したいと相談しました。

その翌日、「震災で亡くなった方の数の折り鶴をつのって絵にして震災の教訓を子どもたちに伝えたい。市役所かどこかで展示したい。」と商店街でまちづくりをしているK氏がプラットフォームを訪ねて来られました。商店街の空き店舗で折り紙教室を開いているI先生が提案され、ぜひ実現したいということでした。すぐにK氏とI先生に紹介してもらい、メッセージと折り鶴を一緒に募集して一緒に展示することになりました。

その後も協力してくださる方に出会っていきました。メッセージの募集はPTA、校長会、老人クラブ連合会に頼みに行きました。神戸学院大学のM教授にはメッセージの震災資料としての分類分けなどを、日赤でボランティア活動をされているSさんとFさんにはメッセージの音読と点訳を申し出てください

ました。中央図書館の1係長は、歴史的に重要なものだから本にして図書館
に保存しましょうと言ってきて、すべてのメッセージをコピーしたものが製本
されて図書館に並べられています。学校は、メッセージの募集をするし、受け取
ってみなさんの授業でも使うということで、はじめのうちは説明が難しかった
のですが、教育委員会の先生や震災当時鷹取中学校におられたS先生など輪
がひろがっていきました。私の子どもたちや友達も手伝ってくれました。

私は3年で別の部署に異動しましたが、次の人へと仕事が引き継がれ、新たな
出会いとひろがりがあり、子どもたちへのメッセージ運動は続いてきました。

心をよせ、関わってくださったすべての方へ心から感謝しています。

平成26年1月27日

大窪 昌子

20年目をむかえて

はんしん あわじだいしんさい ねん た
阪神・淡路大震災から20年が経とうとしています。

ことしこうべ しんさい かいめ ふゆ むか
今年神戸は震災から20回目の冬を迎えます。

このメッセージ集も2005年から毎年発行され10号目となりました。集まったメッセージの分類など、ゼミ生とともに当初から関わらせていただいておりますが、学生たちも被災した方の生の声に触れる中で感じる事も多かったと思います。

ただ、次世代につないでいくという事に関して言えば、今どきの子供たちは文字を読むのが苦手です。被災された方も、改めて文章にしようとする構えてしまわれるかもしれません。そこで、例えば集会所のような場所で体験を語っていただき、子どもたちがインタビューしてビデオレターとして残していく、という方法も考えられます。言葉として語るなかで、必ずしも美談ばかりではない、いろいろな側面もでてくるかもしれません。

自然災害は避けられない。そのなかで、後世に伝えていかなければならないことを、どのように伝えていくか、メッセージ集の発行は今回で一区切りと伺っていますが、これからも考え続けていかなければならない課題だと思っています。



神戸学院大学教授 水本 浩典

＜参考資料＞神戸市「阪神・淡路大震災 被災状況及び復興への取り組み状況」
(平成 26 年 1 月 1 日現在)より抜粋

神戸市の被災状況等

震災は、多くの命を奪うとともに、都市基盤や建築物に甚大な被害を与え、市民に直接的な大被害を与えた。また、復旧の長期化に伴い、産業、都市機能、生活などに様々な影響を及ぼしている。

<p>(1) 市民生活への被害</p> <p>① 人的被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死亡者 4, 571 人 (H17. 12. 22 変更) ・不明 2 人 ・負傷者 14, 678 人 (H12. 1. 11) ・高齢者 (60 歳以上) が死亡者の約 59%* ・家屋倒壊による死者多数 (窒息・圧死が全体の約 70%*) <p>※ 高齢者、家屋倒壊による死者の割合は、平成 17 年 12 月 22 日現在 (死者 4, 571 人) での割合 (ただし、窒息・圧死の割合は直接死 3, 895 人での割合)</p> <p>② 避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーク時：箇所数 599 箇所 (H7. 1. 26) 避難人数 236, 899 人 (H7. 1. 24) 避難所就寝者数 222, 127 人 (H7. 1. 18) <p>③ 公共施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所、病院等の重要公共施設の破損、倒壊 <p>④ 学校教育・社会教育・文化施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校園の約 85%が被災 ・博物館、中央図書館旧館、ポートアイランドスポーツセンター等の破損、倒壊 ・酒蔵、異人館等の破損、倒壊 <p>(2) 都市機能の被害</p> <p>① 建築物、構造物の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全壊 67, 421 棟、半壊 55, 145 棟 (H7. 12. 22 現在) <p>② 火災による焼損 (確定値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全焼 6, 965 棟、半焼 80 棟、部分焼 270 棟、ぼや 71 棟 ・延べ焼損面積 819, 108 m² ・火災件数 175 件 (震災とほぼ同時に 54 件発生) <p>③ 交通ネットワークの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神高速道路 3 号神戸線、同 5 号湾岸線等の倒壊 ・陥没、高架構造物の落下、建築物倒壊等による道路不通 ・鉄道の寸断 ・海上都市へのアクセスの寸断 <p>④ 港湾施設等の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナバース、岸壁等がほとんど全て使用不能 ・港湾幹線道路の寸断 <p>⑤ 埋立地の液状化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部 2～4 工区、ポートアイランド等で液状化 <p>⑥ ライフラインの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電 気 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 7 日間) ・電 話 約 25%停止 (応急復旧に要した期間 15 日間) ・水 道 市内ほぼ全域停止 (応急復旧に要した期間 91 日間) ・工業用水道 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 84 日間) ・ガ ス 約 80%停止 (応急復旧に要した期間 85 日間) ・下水道 管渠・ポンプ場破損、処理場の機能低下 (2/7 箇所) 及び機能停止 (1/7 箇所) (応急復旧に要した期間 135 日間) ・クリーンセンター 全クリーンセンターの運転停止 (応急復旧に要した期間 35 日間) 	<p>⑦ 公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/3 の公園が擁壁崩壊、舗装陥没、地割れ等の被害 <p>⑧ 河川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二級河川 117 箇所破損 ・準用・普通河川 27 箇所破損 <p>⑨ 治山・砂防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急復旧を要する箇所 68 箇所 <p>⑩ 社会・産業面の資本ストック全体の損害額 (推計値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約 6 兆 9 億円 <p>(3) 神戸産業の被害</p> <p>① 基幹事業所及び製造大手企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本社等中枢建築物の倒壊 ・生産ラインの停止 <p>② 中小企業・地場産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケミカルシューズ 約 80%が全半壊または全半焼 ・清酒造 50%以上の企業が全半壊 <p>③ 市場・商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧市街地の商店街の約 1/3、市場の約半数が甚大な被害 <p>④ 観光・コンベンション施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設、宿泊施設、コンベンション施設などで建物損壊などの被害 <p>⑤ 農漁業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港、漁船だまり、農地、農業用施設等が多数被害 <p>(4) その他</p> <p>上記の直接的被害にとどまらず、避難所生活に伴う精神的疲労や子ども・高齢者・障害者等への心理的影響、学校等教育機能の低下、ライフラインの復旧の遅れや交通渋滞などによる都市機能の低下、雇用の不安定化など、市民の生活に対して様々な面で、震災が影響を及ぼすこととなった。</p> <p>また、産業面においても、企業の市外への移転や被災による生産量の低下、港湾施設の被害に伴うコンテナ貨物の他港へのシフト、高速道路の寸断や復旧工事による交通容量の不足等により、神戸のみならず、日本経済へ深刻な影響を及ぼすこととなった。</p> <p>さらに、大量の災害廃棄物処理や、これに伴う環境への影響など、震災がもたらした被害は、広範囲で多方面にわたる深刻なものとなった。</p> <p>(5) 旧避難所等・仮設住宅・災害廃棄物処理について</p> <p>① 旧避難所</p> <p>避難所は平成 7 年 8 月 20 日で終了し、待機所を平成 9 年 3 月 31 日まで運営。</p> <p>② 仮設住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建設戸数 32, 346 戸 (市内 29, 178 戸、市外 3, 168 戸) ○撤去状況 全敷地原状復旧済。 <p>③ 災害廃棄物処理 (平成 10 年 3 月末最終)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実績 解体済 61, 392 棟 (100%)
---	--

子どもたちからの感想文

子どもたちへのメッセージ集 2013 を読んだ子どもたちから、たくさんの
感想文をいただきました。その中からいくつかをご紹介します。

福住小学校 池田 悠真

ぼくはメッセージを読んで、阪神淡路大震災はすごいつらかったと思いました。
ぼくはいま水や電気、ガスをなにも思わずふつうに使っているけどこのメッセージを見てい
くたびに水や電気、ガスが使えることに感しゃしなければならないと思いました。あと、今
持っている命を大切にしなければならないと思いました。自然の力でこんなに多くの人
がなくなっているのにちょっとしたことで、命をなくすのはだめだと思いました。お母さん
やお父さんがぼくたちを支えていることがよく分かってお母さんとお父さんに感しゃをし
ないといけないと思いました。

福住小学校 橋本 亜澄

メッセージを読んで、感謝の気持ちをわすれないようにしようと思いました。今の生活を
当たり前のように思っていました、そうではありませんでした。今こうして温かいごは
んが食べられる事、歯みがきができることなどがすばらしいことなんだと思いました。
私は家に帰って家族に「ありがとう」といいたいです。そして、生きることを大切に
あたりまえに感謝しようと思いました。

福住小学校 岸田 英之

ぼくは、地しんという物がすごく怖いものだと改めて思いました。いつもふつうにいっ
しょにいる家ぞくもたった数時間で失ってしまう。景色が変わってしまうというのはいや
です。ぼくたちは防災訓練をします。
「防災訓練なんかやらなくてもいいんじゃないか」と思うことが何度もあります。でもこれ

よ ぼうさいくんれん たいせつ おも ひとりひとり いのち たいせつ わ
を読み、防災訓練がすごく大切だと思ったし、一人一人の命の大切さも分かりました。

このはんしん あわじ だい さい おお ひと な おお ひと かな おも
この阪神あわじ大しん災で多くの人が亡くなり多くの人が悲しんだと思います。

ぼくは、このはんしん あわじ だい さい まな つぎ わ じ い
ぼくは、この阪神あわじ大しん災で学んだことを次いつくるか分からない地しんに生かしたい
と思います。

本庄小学校 アルバ・アドリアン

はんしん あわじだいしんさい ねんめ いま ひと
阪神・淡路大震災から19年目がたちました。今でもきずついている人や、まだくるしんで
る人がいます。19年前のことを思い出して、きずついている人もたくさんいます。でも、その
おも 思いをのりこえて、いま こうべ のまちは、もとのように見えます。でもまだたて直してる家や、
まだ いえ にすんでないひと こうべ なか にもいます。いまおも はんしん あわじだいしんさい じしん
まだ家にすんでない人が神戸の中にもいます。今思う阪神・淡路大震災はとてもこわい地震
だったと思います。でも、いつか こうべ のまちは、もとどおりになって、みんなはまた、「し
あわせ」に生きていくことができます。まだ こうべ のまちは、ふっこう ちゅう 中です。でも、みん
なで つく ったまちは、みらい につながっていくんだと思います。いま 今まちは「しあわせ」に見えま
すが、さびしい おも 思いをしたひと ひと、かぞく を失くしたひと ひとをはげますために、こうべ いま い
るんだと思います。まちをふっこうさせたひと ひとたちへ、ありがとう。

本庄小学校 松本 暁

しんさい とき
震災の時は、もこもこのふくがきれる、スイッチをONにすれば電源がはいる、水、おち
や、ジュースがのめる、ごはんがたべれる、すきじゃないけど、がっこう 学校でべんきょうができ、
あそべて・・・そんな にちじょう 日常がなくなったというのが、このメッセージ集 しゅう 集をよんでよく分か
りました。

いま しんさい おも まち
今はもう震災があったとは思えないぐらいキレイな町で、じしんをしらなければ、しんさ
いがあったとはわからないぐらいです。「あたりまえは」べつにしあわせでもない。ただ「す
ごしているだけ」だけど、しんさいとうじ、その にちじょう 日常のあたりまえが、とてもしあわせだ、
ということが わ かり、このいきていられるのがしあわせと わ かり、これからは、この からだ
この いのち とも 友だち、しんゆう 親友・・・ものも、すべて たいせつ 大切にしていきたいです。この いのち
ということをした いま おとな 大人になってもすべてを たいせつ 大切に だいじ 大事にします。

友が丘中学校 吾郷 碧紀

今の神戸の姿を見ていると、19年前に阪神淡路大震災が起こったことを忘れかけてしまいます。家や建物が立ち並び、自然豊かな神戸。そんな神戸をつくってきたのは、人々の支え合いや絆だと感じました。

地震で命を奪われることは怖く、恐ろしく、辛いことです。でも、命は助かったとしても、家族や友人をなくすのはもっと悲しいのだろう、と思います。そんな中で生きていくのは辛いけど、生きてきた人たちがたくさんいるから今があり、震災の恐ろしさを伝えていくことができるのだから、感謝したいと思いました。

私は大きな地震を体験したことはありませんが、今回聞いたこと、自分が見たことや体験したことを伝えていきたいと思っています。阪神淡路大震災が起こったことを、これからもずっと忘れないようにしていきたいです。

福田中学校 清水 舞華

私は地震を体験したことがないから、地震の恐さはよく分からないけど、「家族や友達が生きていなくなってしまうんだ」と思うとすごく恐くなりました。いつも通り、朝ご飯を食べ、学校に行く。それが1回の地震によってこわされるっていうのは悲しいし、すごく嫌だと思いました。話を読むとお友達が亡くなってしまったという話もあったので、明日、確実に会えるとは限らないんだと分かったし、これからは毎日友達を大切にして、傷つけてしまったらすぐに謝れるようにしたいと思いました。それよりも傷つけないようにしたいと思いました。これからは毎日の時間を大切にして生きていきたいと思っています。

福田中学校 守屋 有真

今まで阪神淡路大震災の話を読んだり聞いたりしていたけれど、ほとんどが同じような話でした。けれど「同じような話」であって「同じ話」ではない事を知りました。全員が同じような不安を持ち同じような心配をしているけれど、別々の人が、別々の人の事を考えていました。これを知ることができて、少し、文の読み方が変わったと思います。書き手が誰のことについて考えているか、どういう結果になったかを中心に読むようになりました。

そして僕達は「阪神淡路大震災」の事を知っていくんだなと思います。まだ、自分も「阪神淡路大震災」の事を知りつくせてないし、まったく知らない人もいると思うので、もっともっとうこういう事を知っていきたいです。

福田中学校 今井 美佑

たった40秒くらいの時間で、数えきれない程多くの人が亡くなり、多くの思い出の宝物を失い、絶望という言葉が浮かんだ人がたくさんいたと思います。

私は修学旅行の前日、今まで体験した中で一番大きな地震を体験しました。寝ながら、やっぱり母が私を抱きしめて守ってくれました。写真立てが落ちて、ガラスの割れる音が出て、もう修学旅行は行けないと思いました。それでも、震度3～4くらいで、阪神・淡路大震災とは比べものにならない程小さなゆれだったんだと思うと、すごく怖くなりました。

「子どもたちへ」には“怖い”という感情より“感謝”の言葉の方が書かれていたのを見て、人間の強さと優しさは、本当にすごいものなんだと思いました。やっぱり一番大切なのは、命を大切に作る優しさだと、改めて気付かされた気がしました。

上野中学校 植田 一輝

僕たちは震災を経験していないけど、メッセージ集をみると、とてもビックリした。ねているときに、体がういたなど、家が全壊した、長田の方から火がついたと、地震のおそろしさが身についたわってきた。僕たちは今のくらしがあたり前と思ってるけど、このメッセージ集をよんで、今このあたりまえにくらせている事がどれほどしあわせなのかが分かった。

僕は今、中学3年生だ。当時の中学3年生は、この受験の大事なじきに震災にあい、どうやって勉強したのだろうか、と思う。もしかしたら、勉強できずにいきたい高校にいけない人もいたかもしれない。そして、身内が亡くなって勉強したくてもできないじょうたいの人もいたと思うし、亡くなられた人もいると思う。そう考えると僕は勉強のできる、とても良い環境があるから、勉強できるしあわせも感じて受験へのぞみたい。

命を大事にして、しっかりとした人生を亡くなった人たちの分も、あゆんでいきます。

上野中学校 黒木 裕貴

震災という、つい壊れた家や不便な生活を想像しがちでしたが、友人を亡くした人の話を読んで考えました。大切な人を亡くした人にとっては、何年経っても忘れることのできないつらい記憶だと思います。

日本の各地で大きな地震があって、たくさんの方が亡くなっています。その時は、大変なことになっていると心配したり、何か助けになることはないかと考えたりしますが、一年、二年と時間が経つうちに記憶から消えていってしまいます。つらい体験をして、まだ立ち直れずにいる人たちにとっては、人に忘れ去られてしまうということはとても悲しいことなのだと聞いたことがあります。

僕たちが毎年震災のことを学習したり、思い出したりすることは、防災の意識を深めることや、日々の生活を大切に思うことだけでなく、まだ震災から立ち直れていない人に向けての忘れてはいないというメッセージにもなるのではないかと思います。

あたりまえじゃない

上野中学校 吉村 遊風

僕は最近今の時間を過ごすのがとてもたいくつでした。毎日同じようなことをして、ただ、時間がすぎるのをまっていた。でも、「子どもたちへのメッセージ」を読んだ時、たくさんの方を考えました。毎日同じようなことをしているのが、いやだったとして、とつぜん急に大地震がおきたら、おそらく、いやに思っていた日々を、もっとすごしたいと思うはず。学校でも、同じだと思います。休み時間、友達と話していてすごく楽しいけど、授業が始まると、たいくつになります。そのとき、早く休み時間になってほしい、もしくは前の休み時間にもどりたいと思います。

ぼくが、あたりまで、たいくつだと思っていたことが今はずかしく思っています。なぜなら、今でも東北で、苦しんでいる人がたくさんいるからです。これからは、毎日を大切にしていきたいです。

メッセージを^よ読んであなたが^{かん}感じたことを^か書いてみてください。

子どもたちへのメッセージ運動

子どもたちに命の尊さと震災の教訓を語り継ぐための取り組みに、平成16年度から25年度まで、合計2041通のメッセージが寄せられました。この冊子には25年度に寄せられたメッセージの中から抜粋したものを掲載しています。震災のときに生まれた子どもたちが20歳になる今年、メッセージ集の発行は最後になります。

これからも、各区の図書館で、届けられたメッセージのすべてを掲載した冊子をご覧になることができます。

この記憶を忘れずに。



20th

1995~2015

I.17

K O B E

お世話になった皆様ありがとうございました。

《これまで子どもたちへのメッセージ運動の活動にご協力いただいた方々》
(五十音順、敬称略)

絵手紙「栄」フレンズ、絵手紙わかば、クリスタル・ベル、神戸市PTA協議会、神戸市立幼稚園PTA 連合会、神戸市立小学校PTA 連合会、神戸市立中学校PTA 連合会、神戸市立高等学校PTA 連合会、神戸市立盲・養護学校PTA 連合会、神戸学院大学地域研究センター、神戸市混声合唱団、神戸市老人クラブ連合会、神戸デザイナー学院、神戸ヤングクリエイティブクラブ、サークル紙ふうせん、スタジオ・チーズ、大日通周辺地区まちづくりを考える会、日本赤十字社兵庫県支部及び声の図書奉仕団、NPO 法人ふたば

《これまで協力校となっていたいただいた学校》

有野東小学校、池田小学校、板宿小学校、井吹西小学校、会下山小学校、檜野台小学校、春日野小学校、高津橋小学校、小寺小学校、塩屋小学校、成徳小学校、玉津第一小学校、長田南小学校、稗田小学校、兵庫大開小学校、福住小学校、本庄小学校、湊川多聞小学校、本山第二小学校、若宮小学校、井吹台中学校、上野中学校、楠中学校、鷹匠中学校、鷹取中学校、飛松中学校、友が丘中学校、長坂中学校、長峰中学校、葺合中学校、福田中学校、本庄中学校、港島中学校、本山中学校、丸山中学校、兵庫県立舞子高等学校



発行：平成26年11月

発行者：神戸市・神戸市教育委員会

編集：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 078-322-5234

協力：神戸市教育委員会指導部人権教育課 電話 078-322-5807

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

広報印刷物登録平成26年度第203号A-1



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。